



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第74号

発行日
平成30年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|--------------------------|-------------------------------------|
| P2 : 入浜補足調査③ | P12 : 自主観察会(6)スカイ歩道 |
| P3 : 救急救命講習会 | 公募観察会 (11/17) 下見
〔包ヶ浦～紅葉谷自然歩道〕 |
| 入浜池定点観察③・維持管理作業③ | |
| P4 : 自主観察会(5)ハチクマの渡り観察 | P13 : 公募観察会③ スカイ歩道
〔包ヶ浦～紅葉谷自然歩道〕 |
| P5 : 入浜池補足調査④ | P15 : 編集後記 |
| P6 : スカイ歩道整備・清掃作業 | P16 : 事務局連絡事項
(行事参加者一覧・行事予定) |
| P7 : 紅葉谷公園補修・清掃作業 | |
| P8 : PV 会員交流会 日帰り (八幡湿原) | |
| P10 : 樹木名板維持管理作業 | |



「平成30年度パークボランティア会員交流研修会～
さわやかな秋風に誘われて、芸北八幡高原の自然に会いに行こう！」
(集合写真：白川主任学芸員、トレッキングガイドの皆さん、宮島 PV20名)

入浜補足調査③

日 時：8月 11日（土）
 天 候：晴れ
 場 所：入浜池
 行事推進委員：小川、松田、横路
 参加者：大西、小川、小林ペア、松田
 以上 5名



** 山側（右下）からの土砂流入痕が、入浜池（左上）にも到達する様子が残っていた。
 （写真：松田）

【植物】小林（み）会員

今日はコケオトギリが小さく黄色の花を咲かせています。ダンドボロギク、ベニバナボロギク、ハスノハカズラは暑さのためかなり弱っているように見えた。カンザブロウノキの蕾があと、2、3日で咲きそうです。ハマゴウの花は細々と咲いているように見えた。入浜ではキヨウチクトウが1本だけと思っていましたがもう1本確認できました。

【水質】小川会員

CODは全体が8以上で水温も30℃以上、伏流水が出ているC'地点で23℃、PHはほとんどが6以上 C、C'地点で5.6、塩分濃度は中央で0.2%、海に近いF地点で1.9%。

【昆虫】松田会員

7月豪雨後、ほとんど雨が降らず猛暑が続く中での調査となりました。池の水位はやや低いものの湛水は保たれ流出もみられました。塩分濃度は池全体で0.2~0.8%とやや高止まっているものの、数字からみて山からの淡水の供給は途絶えていないようです。アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボの順に多く、少数のウスバキトンボとオニヤンマを加えて、合計5種の確認に留まりました。直射日光を避けるように、日陰に入る個体も目立ちました。

【野鳥】大西会員

確認できた鳥、カルガモ1羽、カワウ2羽、アオサギ1羽、コゲラ1羽、ハシボソガラス2羽、ウミネコ60羽、ミサゴ1羽、トビ7羽、ヒヨドリ3羽、エナガ6羽、メジロ4羽、セグロセキレイ1羽、ホオジロの幼鳥1羽。今が一番、閑散期でしょう。



** わずか7グラム前後の身軽なエナガが、ぶら下がって虫の幼虫を探食していました。
 （写真：大西）

宮島PV研修会

救急救命講習会

日 時：9月8日(土) 9:00～12:00

天 候：雨

場 所：宮島市民センター

参加者：岩崎 大西 小方ペア 小川 北野
河野 小林ペア 末原 兎谷 中道
檜和田 穂井田 弁田 三戸 森
吉崎 以上18名

環境省広島事務所：大高下AR

講師：宮島消防署 中村さん 木原さん

この講習会はこれまで2年に1度実施していましたが、今年は新会員の加入があり昨年に引き続き実施しました。

講師に宮島消防署の中村さん、木原さんをお招きし、新会員3名を含めて計19名が参加して、3時間に及ぶ密度の濃い講義と実習を受けました。

まず、救命救急の方法についてビデオで説明を受け、心停止の防止、早期認識と通報、一次救命処置、医師などの二次救命処置とつながる「救命の連鎖」の中で、現場に居合わせた私たちが行う早期認識と通報、一次救命処置が最重要で生存率が飛躍的に向上することを学びました。

次にAEDの使い方について説明を受けた後実習です。

実習は9名ずつ2班に分かれ、約1時間行いました。

実習内容は

- ①周囲の安全確認
- ②意識の確認
- ③応援の依頼(119番通報、AEDの用意)
- ④呼吸確認(6秒間)
- ⑤胸部圧迫(30回)
- ⑥人工呼吸(2回)
- ⑦AED到着まで⑤、⑥を繰り返す
- ⑧AEDの装着
- ⑨AEDの指示(音声)に従い電気ショック実施
- ⑩AEDを装着したまま、救急車到着まで⑤を継続
- ⑪最後に熱中症の予防応急方法、骨折の固

定方法等について学び、終了後に修了証をいただきました。

私はこのような本格的な講習会は初めてでしたが、今後も救命処置技術の維持向上のため定期的に講習を受けたいと思います。



** 胸部圧迫は強く(5cm深さ)、速く(100回/分)、30回行います。



** AED装着は電源を入れ、電極パッドを貼り、ケーブルを本体に接続します。

(文：河野 写真：岩崎)

入浜池定点観察③・ 維持管理作業③

9/15(土)：悪天候のため中止

自主観察会(5) ハチクマの渡り観察

日 時：9月 23日（日）9:00～12:00

天 候：曇り

場 所：佐伯運動公園

行事推進員：大西 穂井田 小方ペア

参加者：岩崎 大西 大林 小方ペア 小川

北野 黒木 河野 小林（覗）中道
檜和田 穂井田 前田 村上 元広
吉崎 以上 17名

快晴の予報なのに、真っ白の曇り空です。
このため鳥がよく見えません。

ハチクマは9:30～10:00に2羽がやっと見れましたが、その後は、見られず、みなさんだんだんと双眼鏡やスコープから離れて、世間話に花が咲きます。

参加率の悪い小生にとっては、親睦を深めることができてよかったです。なんと終了間際に5羽のハチクマを見ることができ、みんなほっとして解散することができました。

観察結果は、ツバメ類、サンショウクイ、コジュケイ、スズメ、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ヒヨドリ、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カワラヒワ、アオゲラ。

蝶もいました【アサギマダラ、ウラギンヒヨウモン、ツマグロヒヨウモン、キタキチョウ、キアゲハ（ナミアゲハ？）】。



ハチクマ♂ 激しい傷みに、渡りの厳しさが伝わってきた。（大西会員 前日撮影）



観察風景(1)



観察風景(2)

(文：小方 写真：大西、岩崎、北野)



ハチクマ (北野会員 当日撮影)

入浜池補足調査④

日 時：10月6日（土）
 天 候：曇（波高し、風強し）
 場 所：入浜池
 行事推進委員：小川 松田 横路
 参加者：大西 小川 小林ペア 松田
 以上5名

【植物】小林（み）会員

秋になったので足元の草丈が低くなつて、枯れるものは枯れて、花の咲いているものはダンドボロギク、コケオトギリ、トラノオジソかレモンエゴマなどちらかわかりません。ハマゴウ、キョウチクトウの花も少し咲き残っていました。

やっぱり秋は実物がたくさん見られる。赤い実、黄色い実のシロダモ、カンコノキの実も色づき始めている。少し残っているムクロジの実がこの風で落ちるのではないかと心配です。イワタイグキも来年の芽を用意している。



シロダモの実（黄）



シロダモの実（赤）

【水質】小川会員

塩分濃度は山側で0.00%、海側0.08%、水温は21℃前後、PHは全体的に低め、D地点で5.9、C‘地点で6.1、F地点6.6、CODはほとんどが8以上、伏流水が出るC‘地点で2でした。

【昆虫】松田会員

山陰沖を台風が通過する強風の中でしたが、風のやみ間に8種23頭を確認できました。最優占はアオモンイトトンボで全体の35%を占め、水辺の茂みで捕食や交尾行動が見られました。本種は入浜池で年2~3回発生しているとみられ、夏~秋に多数確認されることが多いです。次いでシオカラトンボ、オニヤンマが目立ち(17%)、シオカラトンボでは打水産卵もみられました。このほかギンヤンマやオオシオカラトンボのなわばり行動、ウスバキトンボが風上に向かってホバリングする様子がみられました。そして期待されたアカネ属はリスアカネ、ネキトンボの2種に留まり、いずれもオス1個体のみでした。ネキは多くはないものの過去にも確認があります。リスは例年の秋の入浜池の優占種なのですが・・・今回の出現率は天候の影響を受けて、イレギュラーな可能性がありそうです。



パトロール飛翔するギンヤンマ♂。



数年ぶりに入浜池に現れたネキトンボ

(写真：松田)



コサギ（幼鳥）

(写真 大西)

【野鳥】大西会員

快晴ながらも強風が吹きつける天気。いつもどおり池の東側から林の中に入るとびっくり！浜辺では轟轟と聞こえていた風の音がほとんど消えて、ヒヨドリの声がしてきました。林は防風林の代わりをしていました。そんな中で、久しぶりにキセキレイに会えましたが、強風のためか小鳥の動きは少なかつたです。観察種は次のとおり。

種名	数	種名	数
アオサギ	1	メジロ	2
ダイサギ	1	コサメビタキ	1
コサギ	1	キセキレイ	1
ウミネコ	1	セグロセキレイ	1
トビ	1	カワラヒワ	1
コゲラ	1	ホオジロ	1
ハシブトガラス	1	ツバメ類	2
シジュウカラ	1		
ヒヨドリ	6	計	16種

スカイ歩道整備・清掃作業

日 時：10月 20日（土）9:00～12:00

天 候：晴れ

場 所：包ヶ浦自然歩道（スカイ歩道）

行事推進委員：檜和田、森

参加者：今田 岩崎 大西 黒木 河野 末原
兎谷 檜和田 前田 村上 森 吉崎
以上 12名

7月の西日本豪雨とイノシシ被害で包ヶ浦自然歩道がかなり傷んでおり、その整備と修復清掃活動を行いました。

当日は天候に恵まれ、紅葉谷公園側より約250m位にわたる歩道と階段の修復、側溝の泥上げ、倒木の除去作業を12時頃まで行いました。

作業前の荒れていた歩道は、見違えるように綺麗になり、歩きやすい歩道になりました。



** 写真：村上会長



(文：檜和田 、写真：村上、末原)



** 作業前



** 作業後

紅葉谷公園補修・清掃作業

日 時：10月 25日（木）9:00～12:00

天 候：晴れ

参加者：岩崎 大林 大西 川崎 河野 小林(覗)

佐藤 未原 兎谷 前田 三戸 村上 森

横路 吉崎 以上 15名

環境省広島事務所：大高下 AR

紅葉シーズンを迎える前に、紅葉谷公園の清掃及び環境整備作業を当会、宮島さくら・もみじの会、JR西日本職員の合計49名で行いました。

当会は、公園内の側溝清掃と樹内に溜まった砂の除去と園路の砂入れ補修作業を、宮島さくら・もみじの会とJRは、園内清掃と枯木・枯枝の除去作業を行い、搬出したゴミ量は1,390kgでした。



「来夢」～宮島口着 17:00

行事推進委員：二神

参加者：麻生 岩崎 小川 奥田 黒木

河野 小林（彌） 佐藤 島 末原

田内 穂谷 中道 二神 穂井田

舛田 村上 元広 森 横路

以上 20 名



(文：末原 写真：大高下 AR、岩崎)

PV会員交流会 日帰り(八幡湿原)

平成 30 年度 P V 会員交流研修会
～さわやかな秋風に誘われて、芸北八幡高原
の自然に会いに行こう！～

日 時：10月 27 日（土）8:30～17:00
場 所：山県郡北広島町東八幡原 八幡高原
行 程：8:30 宮島口～山陽自動車道～戸河内
IC～10:20 「高原の自然館」～11:00 「山麓庵」～12:00 昼食、13:00 八幡湿原散策～
15:00 自然館発～深入山～戸河内道の駅

天気予報が雨から曇りに変わったので好天を期待し、マイクロバスで宮島口を出発。

戸河内で高速を降り、標高が上がるにつれ紅葉が色濃くなるのを見ながら、八幡高原へ。

「高原の自然館」に到着すると、白川主任学芸員、トレッキングガイドの方々にお迎えいただきました。

「高原の自然館」は、芸北高原のブナ林や湿原、そこで生きる動植物が紹介されている自然学習施設で、白川主任学芸員は自然保護に加え、地域の活性化などさまざまな活動をしておられるそうです。またトレッキングガイドは計 14 名おられる中、この日は足利さん、河野さん、中島さんなど計 7 名の方が来てくださいました。

まず自然館の中にご案内いただき、ぶな林、湿原、クマやオオサンショウウオの動植物などの展示を見ました。



白川主任学芸員

白川主任学芸員から、博物館は、皆に紹介すること、自然を保存することが役割であること、芸北は施設だけでなく地域全体が貴重な自然を有する博物館であること、また八幡高原の成り立ちなどについて熱く語っていた

きました。

その後、隣接する「山麓庵」（茅葺の古民家風だが、実は 2000 年建設）にて、各テーブルにガイドさんも入り、相互の活動の紹介をしました。当会の村上会長からは、宮島入浜池活動の紹介がありました。

その後、芸北トレッキングガイド副会長さんから、ガイド活動について

- ・20 歳代～70 歳代の 14 人が活動し、ガイドは有料 5,000 円（15 人まで、2～4H）で行っていること

- ・方針は、①安全・安心、②自然への配慮、③感動を大切に、④情報は正確に

- ・今後の夢は、①ガイドを産業にすること、②人口減少の中次世代を育成すること、そのため中学生対象にジュニアガイドを育成していること、の説明がありました。

また、午後散策する八幡湿原については、白川主任学芸員から

- ・放牧地工事で失われた霧ヶ谷（きりがたに）湿原を復活させるための活動を、2004 年から県とも協力して行っていること

- ・地球温暖化で気候も極端になる中、自然保護・復活の取り組みに終わりはないことなどを、熱く熱く語っていただきました。

その後、地元産の野菜天ぷらとお蕎麦付きのおいしい昼食をいただきました。

午後からは、ガイドさんによる八幡高原ご案内。千町原や臥竜山が一望できる「おーいの丘」、水口谷湿原、午前中に説明を受けた湿原復活の取り組み中である霧ヶ谷湿原を歩き、元湿原の現状、また復活状況を見ることができました。



トレッキングガイド(2)

帰りのバスの中では一人ずつ感想報告タイムがあり、皆さんからは、

- ・ガイドの会の方々と交流でき、ご厚意と活動への熱心な姿勢に感銘を受けたこと

- ・臥竜山、八幡高原、また紅葉などの美しい自然に、心を洗われ、改めて自然保護の大切さを感じたこと

また

- ・現地との連絡調整、参加者への連絡、当日のお世話など全てご準備いただいた舛田会員、また現地との中継ぎをされた元広会員への感謝とお礼！

- ・また次回もお願いしたい！！等のご意見がありました。

私は初めて参加しましたが、自然について直に現地の方から聞くなど、個人で行ったのでは得られない大きな収穫がありました。

また PV の皆さんともお話しでき、とても楽しく実り多い研修でした。ありがとうございました。

(文：二神 、写真： 二神、麻生)



トレッキングガイド(1)

· · · · · 投稿 · · · · ·

『晩秋の八幡(やわた)湿原』

平成 30 年 10 月 27 日

もんぺえの美女がガイドや秋の山

木道に沿ふて煌めき草紅葉

竜胆と熊の爪痕ひと処

荻さはぐ八幡湿原暮れ早し

暮れがての松茸飯の叩き売り

黒木 隆信

センブリとトリカブト

八幡高原のおーいの丘で足元にセンブリを見つけた。

トレッキングガイドのおじさんの言にそって、噛んで見た。昔通り苦い。

子供のころ田舎家の縁側で、よく祖父母と三時のお茶をしていた。

お茶は近くの野原で採った千振の煎じ汁、つまりはたくあん。

苦かったがだんだん慣れてきた。

丘を少し下ると藪の中にトリカブトがあった。むかし南アルプスで、中年のおじさんに出会ったことを思い出した。

おじさんはこのきれいな青紫の花に、たいそう魅せられていた。

花の名前と由来を訊ねられた。鳥兜・・・。もちろんそれ迄もその後も、わたしはこれを食したことはない。

村上 光春

樹木名板維持管理作業

日 時：11月3日（土）9:00～12:00

天 候：晴れ

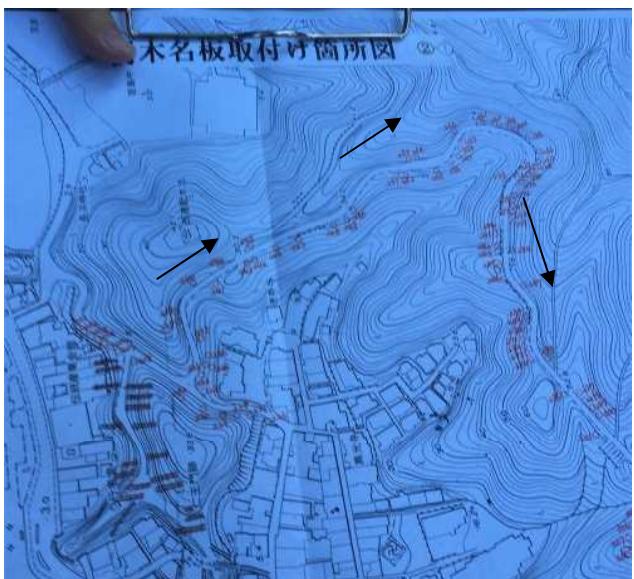
場 所：うぐいす歩道～もみじ歩道～
あせび歩道

行事推進員：河野、吉崎

参加者：麻生 今田 岩崎 金山 川上、
北野 河野 小林ペア 佐藤 嶋谷
末原 田内 前田 弁田 村上 森
吉崎 呼坂 以上19名

今回の参加者は18名（後から1名合流し最終的に19名参加）で、2グループに別れて実施することになった。

うぐいす歩道～もみじ歩道コース（記事担当の吉崎会員参加コース）は、桟橋からうぐいす歩道を通って紅葉谷歩道までのルートでした。





最初の名板はネズでした。



これは新たに名板を付けたものです。

その他、樹木が成長したため、名板のついた枝を切り落とされたものや、樹木が枯れたものもありました。

これらの枯れたり、切られた樹木を名簿から削除するとともに、新たに名板を取り付け、名簿に登録したものもあります。

全体に手の届きやすいものが多く、やりやすかったと思う。ただ足場が悪くて、まったく手を出せないものもあるので、それらは、登録から外したほうが良いと思う。

この桟橋から紅葉谷歩道へのルートにおける樹木名板の維持管理作業は、割合やりやすい場所にあるものが多くて、やりやすかったのではないか。その他、車の通行がかなり多くて、作業するに注意が必要だと感じた。



名板が柵の向う側にあり、維持管理作業のできないものもあった。



また、名板を設置した時から樹木が成長して高い場所に設置されたようになっているものも見受けられた。

以下は、あせび歩道ルートでの活動の様子



樹木位置と名板番号照合



名板の清掃



名板照合と清掃



名板の取付けを調整

(文 : 吉崎 写真 : 吉崎、河野)

自主観察会(6) スカイ歩道公募観察会下見 (包ヶ浦～紅葉谷自然歩道)

日 時 : 11月 10日 (土) 9:00～14:30

天 候 : 晴れ

場 所 : 行事推進員 : 中道、増田、山本昌

参加者 : 岩崎 北野 河野 小林 (勅)

未原 中道 前田 村上 森

山本昌 横路 呼坂 以上 12名

11月17日の公募観察会の下見ということで初めてにコースの場所に危険なところがないかチェックをしながら歩いていただくことにした。

中道会員の案内で火薬庫の説明を聞く。それから汽水池にあるシバナを確認する。説明板の文字が薄く読めない。それから山道を歩く。カンザブロウノキの言わわれは諸説あるようです。ミミズバイ、シキミ、ホウロクイチゴ、ソヨゴ等、沢山確認するが花も実もなく説明しにくいが当日のリーダーの幅広い知識に任せよう。

12時20分頃博奕尾上広場に到着、昼食とする。当日は12時着を目的にしたい。昼食後、紙芝居をする予定ですが下見ですから紙芝居はしません。下山開始で紅葉谷には14時到着で今日の反省点などを話し合い解散としました。

道中、コシダが茂っていましたので鎌で刈ったが歩きながらの作業でなかなかうまくいかなかったのが気になりました。紅葉もきれいだったので充分楽しめるのではないかと思いました。

(文 : 小林 (勅))

公募観察会③スカイ歩道 〔包ヶ浦～紅葉谷自然歩道〕

日時：11月17日（土）9:20～14:00

天候：晴れ

場所：包ヶ浦～博奕尾（ばくちお）～紅葉谷

一般参加者：14名

場所：行事推進員：中道 増田 山本昌

参加者：麻生 岩崎 大西 川崎 北野 黒木

河野 小林ペア 佐渡 佐藤 末原

中道 野呂田 前田 弁田 三戸

村上 以上18名

環境省広島事務所：山崎保護官、大高下AR

数日前までの雨天予想を覆し、青空が広がり絶好の観察会日和になりました。桟橋からバス・タクシー・徒歩で三々五々集合場所の包ヶ浦管理事務所前に集まりました。9時から受け付けを開始し、9時20分までに全員集合し、開会式を行いました。

まず環境省山崎自然保護官の挨拶があり、次に宮島地区パークボランティアの会村上会長から「毛利元就は兵2500名と共に、ここ包ヶ浦から博奕尾を越えて行軍し、厳島合戦を勝利に導いたといわれております。今日は34名ですが、同じ道を歩き、元就の行軍に思いをはせながら、宮島の自然を満喫してください。」と挨拶がありました。

担当の小林（勲）会員よりスケジュール・注意事項の説明があり、公募参加者を2班に分け、リーダーは1班北野会員、2班小林（み）会員が担当し、各班の先導とガイドを行います。全員でストレッチ体操を行った後、9時40分出発しました。

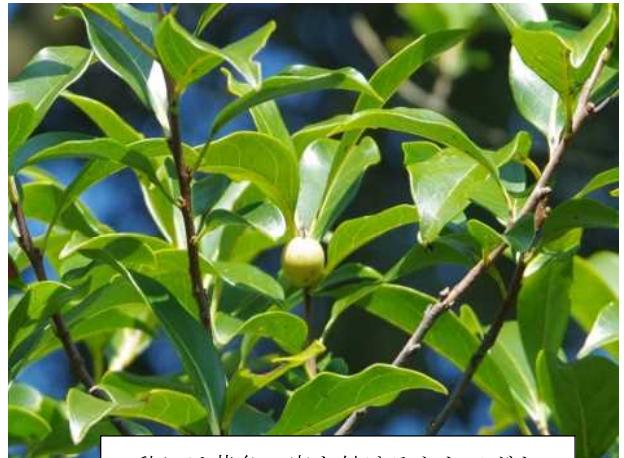
包ヶ浦公園では、汽水域に生育するシバナ、鹿の食害から自衛するため枝が変形したトゲだらけのカンコノキ、雌雄異株（雌株：赤い実とおしべの退化した雌花、雄株：黄色い雄花）のシロダモを観察しました。公園を過ぎ、旧陸軍の弾薬庫跡を見た後、包ヶ浦自然歩道に入り、博奕尾に向かいました。まず出会うのが、宮島以外の瀬戸内海では見ることが稀で南方

系の常緑広葉樹である面白い名前のカンザブロウノキです。



8～9月に白色の小花をつけるカンザブロウノキ

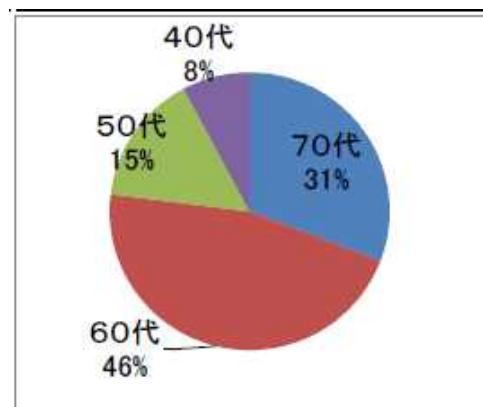
登山道を進むと、美しい紫色の実を付けたヤブムラサキ、風にそよいで葉が音を立てる雌雄異株のソヨゴ、そしてお目当てのトキワガキを観察できました。トキワガキは冬でも落葉しない常緑樹であることから名付けられました。



秋には黄色い実を付けるトキワガキ

杉之浦山を過ぎ、道を覆い隠していたコシダが刈り取られ、きれいに整備された登山道を快適に進み、11時50分に博奕尾に到着し、昼食となりました。

昼食後12時30分より博奕尾にて小林（勲）会員による恒例の「厳島合戦」の紙芝居の開演です。



【参加者の年代】

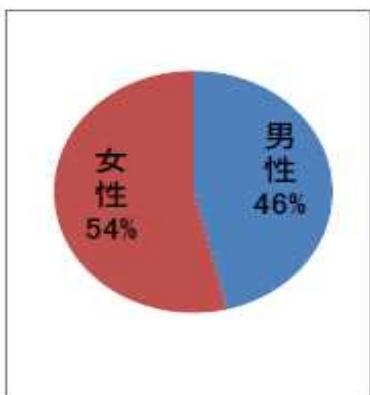
気持ちの良い秋晴れの中、皆さん熱心に観賞していました。中道会員から「博奕尾」の名称の謂れの説明があった後、今回の観察会に合わせて3日間登山道を整備していただいた末原会員の紹介があり、皆さんで感謝を込めて拍手を送りました。

13時に下山開始し、13時35分に観光客でごった返す紅葉真っ盛りの紅葉谷公園に到着しました。閉会式を行い、公募参加者の方にアンケートを書いていただき、14時に解散となりました。

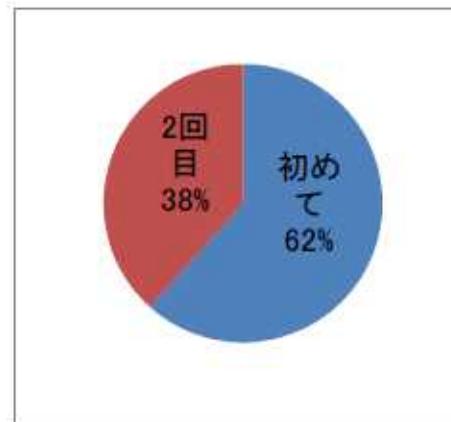
今回植物音痴の私は、ボランティアの会の先達の方々に学び、カンザブロウノキ、ミミズバイ、シキミの識別などできるようになりたいと思いました。

(文・写真： 河野)

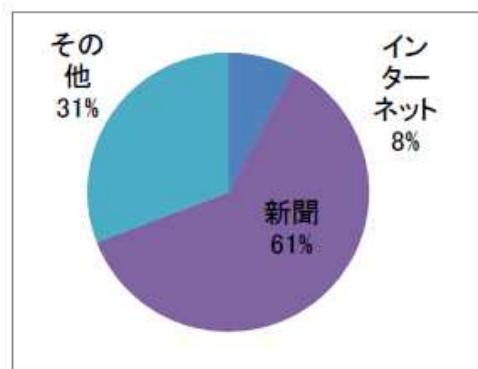
アンケート結果



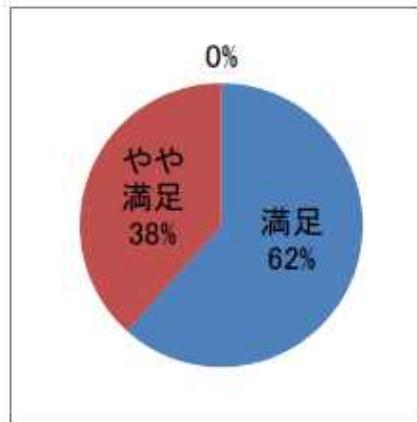
【参加者の性別】



【観察会参加回数】



【行事を知ったのは】



【行事の感想】

- ・ぜひ宮島に関する歴史ツアーを企画してください。
- ・植物などよく知っておられて勉強になりました。あまり宮島を知らない人が包ヶ浦まで朝行くのは大変。桟橋集合では都合がわるいですか？
- ・思ったより楽に感じたコースだった。沢山勉強させていただきました。今後も続けてください。
- ・植物など詳しく説明して頂きよかったです。目的地までトイレがないのが心配でした。他のコースにも行ってみたいです。
- ・また参加したい。平日実施も希望。
- ・別コースでお願いします。
- ・自分が知らない植物を教えてもらえてよかったです。話も良く分かりました
- ・面白くためになりました。
- ・興味深い話をたくさん伺いました。天気も良く、気持ちよく過ごしました。
- ・ゆっくり観察できてよかったです。一つのグループに植物・歴史、それぞれに詳しい人がいるとよい。

(まとめ：舛田)

..... 投稿

『公募観察会にて』

平成 30 年 11 月 17 日

博打尾の木の実に頭打たれけり

冬風や末広がりに牡蠣筏

なかんずくウリハダカエデの冬紅葉

水涸れのところどころに猪ぬた場

名の木枯る陶の散りゆく紙芝居

黒木 隆信

◇ 編集後記 ◇

・個人的な用事が 10 月初めで一区切りでき、PV 活動に参加開始しようとしたら、風邪気味で咳が止まらず、最初の参加は 10 月 27 日の八幡湿原交流会。湿原復活へ白川主任学芸員、トレッキングガイドの皆さんのが熱い思いがどーんと伝わってきました。一方で人が手を入れるとなかなか元に戻らないことも実感。季節を変えてまた行ってみたいと思った。

・編集が大詰めの 11 月 20 日、突然 PC の立ち上がりが超遅くなり、メールも開けない状態になる。翌日、通勤バスの中でスマホ片手に対応を調べ、夜には復旧。一瞬冷汗がでました。（麻生）

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455